午後2時00分開会

○池田委員長 皆様こんにちは。ただいまから文教福祉委員会を開会いたします。以降着座にて進行させていただきます。

欠席届が出ております。教育担当部長が出張公務のため欠席です。

日程に先立ちまして、人事異動のご報告がございます。7月16日付で福祉総務課長の異動がありました。お手元に名簿をお配りしておりますので、ご確認をお願いいたします。一言、どうぞ。

○岡福祉総務課長 7月16日付で福祉総務課長に着任いたしました岡と申します。以後どうぞよろしくをお願いいたします。

○池田委員長 はい。ありがとうございます。

本日の日程をご覧ください。報告事項は、子ども部が2件、保健福祉部が4件でございます。この日程に沿って進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。それでは、日程の1、報告事項に入ります。まずは子ども部（1）千代田区ベビーシッター利用支援事業（一時預かり利用支援）に係る補助内容の拡充について、理事者からの説明を求めます。

○宮原児童・家庭支援センター所長 それでは、教育委員会資料1番、千代田区ベビーシッター利用支援事業助成（一時預かり利用支援）に係る補助内容の拡充につきまして、教育委員会資料1番に基づきましてご説明させていただきたいと思っております。

1番の概要でございますが、ベビーシッター利用支援事業でございますが、こちら、一時的に保育が必要となった保護者の方がベビーシッターを利用した際に支払った利用料につきまして、区がその費用の一部を助成するものでございます。区の独自拡充分を除いて、東京都から補助率10分の10にて補助金の交付を受けておる事業でございますが、今般、東京都のほうで補助要綱を、今年度改正を行いました。この改正に伴って補助対象者や補助対象となる利用時間が拡充されることとなりました。それに伴い区の制度も拡充するものでございますが、区では、都の改正内容に加えまして、区独自に補助内容をさらに拡充をさせていただきたいと思っております。

まず、①の表でございますが、こちらは令和6年度、昨年度までの都の補助内容と区の独自拡充内容をまとめたものでございます。①の表を改めてご覧いただければと思っております。

表のうちの左側が東京都の補助要綱の制度でございまして、区のほうでも網羅をしているものでございます。基本的には未就学児までの児童の方が対象で、年間の利用時間については144時間、ただし例外として多胎児のお子さんの場合は年間288時間までご利用が可能という制度でございます。

補助金額につきましては、利用の時間帯によって異なりますが、朝7時から午後10時までは時間当たり2,500円、上記以外の時間については1時間当たり3,500円の補助の制度でございます。

右側をご覧ください。一方、これにさらにプラスということで、区の独自拡充内容でございますが、対象年齢につきまして、未成年の障害児がいらっしゃるご世帯については、小学3年生のお子さんまで追加で補助をさせていただいておるところと、あと、同じく利用時間につきましても216時間まで拡大をしておったものが昨年度までの状況でござい

○池田委員長 はい。説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○ふかみ委員 ご説明ありがとうございます。こちらの実績なんですけれども、千代田区での実績だという理解でよろしいですか。

○宮原児童・家庭支援センター所長 委員ご指摘のとおり、こちらは千代田区の方の利用の対象というところでございます。

○ふかみ委員 そうということですね。失礼いたしました。1人当たりの実績を見ますと、令和4年度で1人当たり59時間、令和5年度で65時間、令和6年度で70時間ということで、今回の適用時間が144時間から288時間になったということなんですけれども、どちらも利用実績は非常に低いように感じておりまして、前回からの拡大適用に拡充になった内容に関してはどのような課題があったのか、お聞かせいただければと思います。

○宮原児童・家庭支援センター所長 課題といえますか、まずもって、今回、東京都さんのほうで出しておりますひとり親家庭ですとか障害児童家庭、また多胎児のご家庭については、そもそも保育ニーズが高いというところは我々も承知をしておるところでございます。また一方で、執行率の話になってしまっただけなんですけれども、通常の方の未就学児までという部分でいうと、同じく千代田区の中で、例えば我々が所管しております学童クラブの待機人数が今のところ千代田区ではないだとか、そういったところも含めて、全体の利用時間についてはさほど伸びなかったところでございますが、一方で、先ほど申し上げました保育の本当に必要な方についてはニーズがあるということは把握はしておるところでございますので、都の拡充に合わせて、そのニーズをしっかりと我々のほうでも対応させていただきたいということで出させていただいたところでございます。

○ふかみ委員 ありがとうございます。その時間に関しては、この利用時間をこの利用児童数で割った数字を今計算して出したものなんですけど、とてもいいサービスだと思うので、ぜひ多くの方に利用していただけるようにアナウンスしていただければと思います。

○宮原児童・家庭支援センター所長 委員ご指摘のとおり、広報の制度につきましては、先ほど申し上げました広報千代田に限らず、様々なアナウンス方法を今後も考えてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○池田委員長 牛尾委員。

○牛尾委員 ベビーシッター利用が拡充されるということで、東京都が拡充をして、区も独自に拡充するというので、これはいいことだと思います。ただ1点、未就学児、今回区独自にひとり親家庭ということが加わりましたけれども、例えば、小学校低学年、1年生、2年生、学童クラブに入れればいいですけども、学童クラブがなかなか利用できない低学年の方の対象を広げるということまでは検討されたのかどうか、いかがですかね。

○宮原児童・家庭支援センター所長 学童クラブとの関連でございますが、学童クラブの場所によって人気があるところ、そうではないところあるかと思うんですけども、千代田区全体では待機児童が現状発生しているわけではない状況、また通常の方のご利用状況も見据えた形で言うと、今回、我々のほうでやらせていただきたいのは、より保育にいろいろ負担がかかっている大変なご家庭についてサポートをさしあげたいというところで今回やらせていただいたところでございます。

○牛尾委員 例えば、学童クラブの場合は、両親が働いているとか、そういった条件があるじゃないですか。そうじゃなくて、なかなか学童クラブは利用するまでいかないけれど

も、1年生とか2年生、低学年のお子さんが自宅に帰るお子さんについて、例えば、保護者の方が何かしら用事があった場合にこういったものを利用したいとなった場合もあると思うんですね。今回はこうした方々を対象にしたいということですが、今後そうしたニーズが出てきた場合に検討の対象になるかどうか、いかがですかね。

○宮原児童・家庭支援センター所長 委員ご指摘のニーズの部分については、当然我々も研究等を続けていかなければならないかと思っておるところでございますが、いわゆる学童に入る要件を満たさない方につきましても、例えば、小学校のほうの放課後子ども教室等、夕方5時程度までは一緒に皆さんで遊べるような環境を提供していたり、また区内児童館等も展開しているところがございますので、様々な遊び先の中からご家庭の方がどれを選んでいただけるのかということも含めて研究してまいりたいと思っております。

○池田委員長 ほか、よろしいですか。

小枝委員。

○小枝委員 恐れ入ります、ちょっと。まず伺いたいのが、ベビーシッター会社というのがどこでもよくなっているのかということと、今、大体何社ぐらいあるものなんでしょうか。以前はここしか駄目よという時代がありましたが、今はもう変わっているのか、それはどのぐらいの数があるのか教えてください。

○宮原児童・家庭支援センター所長 まず、こちらの制度でございますが、大本が東京都の制度でございますが、このベビーシッター事業者も何でもいいというわけではなくて、東京都の認証を受けた事業者ということでございます。裏を返すと東京都の認証を受けた事業者であれば千代田区内事業者に限らずということでございますので、今、すみません、数字がばっと出てこないんですけども、結構大きな数の事業者のほうで東京都のホームページ等の一覧に載っておるところでございますが、うちのほうでも幾つかご紹介させていただいたと思うんですけども、ちょっとすみません、正確な数字だけちょっと今ないので申し訳ございません。

○小枝委員 分かりました。都が認証しているから、その人材とか資格とか研修とかについては間違いのないような考えなのかなと。とにかく全てはよくなる方向にしか動いていないんですけども、すごくいいことだと思います。

その派遣対象についてなんですけれども、例えば、高齢者、おじいちゃんおばあちゃんがいたりとかしても、そういうことは問わない。いいという考え方なのか。あと、ちょっとまとめて聞くと、保育園のいわゆる待機しているところにも派遣することになっているのか、ちょっとその辺の、主に、ちょっと今日映画を見たい、病院へ行きたいというのでもいい。つまり派遣先の状況がどうであるということは問わないような内容になっているのか。すみません。事務事業概要に書いてあるかもしれないんですけど、今日持ってきていないので教えてください。

○宮原児童・家庭支援センター所長 まず、先ほどのベビーシッター事業者でございますが、現状ちょっと見ましたら31社ございました。委員ご指摘のとおり、東京都の認証を受けているということですので一定の水準がある。要するに変な事業者ではないというところで、そこに頼んだ場合に事後的に補助を出すというような制度でございます。

また、ご質問の件でございますが、こちらのベビーシッター利用については、特段こうしないとということをおまわり出しておりませんので、幅広くなるべくご活用いただ

るように、例えば日常生活上の突発的な事情ですとか、社会参加等含めて、そういったときに一時的に保育が必要な場合にもご利用いただけるということでございまして、実際に利用の時間等については、ベビーシッター事業者と各ご家庭のほうでご調整を頂いてというところでやっていただく制度でございます。

○小枝委員 最後、すみません。病児対応というのはどうなっていましたでしょうか。

○宮原児童・家庭支援センター所長 学校行事等も……

○小枝委員 ごめん。病児保育の病児です。病気のときの対応。

○宮原児童・家庭支援センター所長 失礼いたしました。病児保育についてなんですけれども、こちら、いわゆる病児、病後等については、通常のベビーシッターの範囲内で対応ができるのであれば大丈夫だと思うんですけども、そういったところを受けられるかどうか事業者のほうと少しご相談を頂いてということになってございます。こちらの制度で使う場合には各事業者のほうを受け入れられれば使っていただいてということになりますが、基本的には、通常の突発的な対応でやっていただくというようなところを考えたの制度でございます。

○池田委員長 はい。ほか、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。それでは、（１）千代田区ベビーシッター利用支援事業（一時預かり利用支援）に係る補助内容の拡充についての質疑を終了いたします。

次に、（２）千代田区障害児医療ステイ（レスパイト入院）事業について理事者から説明を求めます。

○宮原児童・家庭支援センター所長 では、続きまして、教育委員会資料２番、千代田区障害児医療ステイ（レスパイト入院）事業について、教育委員会資料に基づきましてご説明をさしあげたいと思います。

まず、１番の概要でございます。こちら、医療的ケアの必要がある児童の方について、先ほどご案内したベビーシッターですとか子どもショートステイの利用が困難であることから、児童のご家族がレスパイトや出産、その他、養育ができない場合には、現状、重症心身障害児等の在宅レスパイト事業をご利用いただいておりますが、こちらの利用に実態として限られておったところでございます。今回、在宅にとらわれないレスパイトの一環といたしまして、区内病院、名前出ささせていただきますが日本大学病院さんと協定を締結いたしまして、病院で児童をお預かりする制度というものを新たに実施し、保護者の皆様の精神的、肉体的ご負担の軽減を図ってまいりたいと思っております。

こちらについては、病院で児童をお預かりするに当たっては、最大で６泊７日の範囲内ということで病院と調整するようところでございますが、本事業に係る利用家族の方の費用については、そもそも医ケア児の方は医療的ケアが必要だということで、入院自体には医療保険が通常適用されるものと見込んでおります。そのため、実態の経費としましては泊まった際のレンタル寝間着等の実費分のみのご負担で対応できるように制度を構築させていただいたところでございます。なお、入院にかかるその他の医療用の消耗品ですとか、ベッドの個室料金、当日対応に当たる看護師の人件費見合い等については、区において負担するような事業内容でございます。

また、本事業の開始につきまして、まずもって児童を受入れに当たって様々な物品等が

必要になってまいります。そういったものを病院側で当初から必要になる物品について購入補助についても併せて行う制度でございます。

次に2番でございます。開始の年月日でございますが、協定締結予定が8月の1日になってございますので、この日から事業はスタートいたしますが、実態といたしましては、9月以降の申込みということで事業を展開させていただく予定でございます。

3番の利用の流れでございますが、下の表をご覧くださいと思います。具体的な流れでございますが、まずは利用者の保護者の方からこちら区のほうに相談とお申し込みを頂くような形になり、我々のほうで一旦中身をご確認させていただきつつ、協定の区内病院のほうにご連絡をさせていただきます。その後、利用者の方が一度病院で実際にご受診を頂き、その上で診察内容や病院の状況等を踏まえて病院側さんのほうで受入れの可否ですとか時期等を保護者の方と相談して決めていくような形になります。実際にご入院となりましたらば、その日にご利用いただいて、その後、終わった後は区のほうで協定に基づき病院側への負担分については後ほどお支払いするということでございます。なお、利用実費分については退院時に保護者の方から病院に直接お支払いいただくというようなスキームで考えておるところでございます。

今後のスケジュールでございますが、先ほど申し上げました協定締結が8月の1日を予定しておるところでございます。協定病院とは現在、こちらレスパイト入院の場合は24時間体制でケア児の方についていくような形になりますので、看護師の受入状況、出勤状況を鑑みると、ご相談を頂いた翌月以降が通常だということでお話を頂いておるところでございますので、実際の受入開始は9月の1日を予定しておるところでございます。

また、こちらは現在我々の区のほうで把握している医ケア児の皆様のご家族10世帯程度でございますので、こちらについては大々的な広報というよりは、個々別々にしっかり丁寧に個別にこちらの事業の開始について周知をさせていただきたいというふうに考えておるところでございます。

ご説明は以上でございます。

○池田委員長 はい。説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○西岡委員 ありがとうございます。私は、令和4年の第4回定例会で、まさに0～2歳の部分で千代田フレンズでは補えない部分というところで、この医療的ケアのレスパイトが大変重要だという指摘をさせていただいて、その後、協議体ができたと思うんですけども、今回こういう事業が生まれるということで、本当に心から感謝しています。本当に皆さん助かると思います。

で、今、千代田区で10世帯ということだったんですが、やはり年々、2005年ぐらいいかな、から1万人で、また現在2万人以上ということで、どんどん増えているんですね。だから、今後想定としては増えていくんだろうなというところで、しっかり千代田区としてもケアしていただきたいと思います。

今回、ちょっと幾つかあるんですけど、他区に、今までやはりこの0～2歳というところで新宿区の乳児院とかに依存していた部分があったと思うんですね。これというのは、ご家族の要望によってはもちろん継続はしていただけるんですか。ちょっとまず、それ、1点お願いします。

○宮原児童・家庭支援センター所長 今回、医療的ケアのある方ということで、いわゆる

常にケアをしなければならない方というところで考えております。実際に出ました新宿の乳児院さんのほうについても、比較的軽度のものであれば我々のほうからしっかりとお願いをして何とか受け入れていただいているところであるんですが、こちらの方については、なかなかそういった形の中だけでは対応が難しい方、本当に入院が必要となるような方を想定をしておるところでございます。一方で、だからといって乳児院側のものが全く使えないかということ、今後も場合によってのお願いというのは続けていくことではございますが、より重い方に対してしっかりとケアができるという制度で思っております。

○西岡委員 そうですね。ありがとうございます。当初の答弁でもそういうふうにお答えいただいていたかと思えます。軽度は対応できるけれどもということ、完全な看護師さんがいらっしゃるという本当のケアをしていただけるのは、やはりこういう病院対応じゃないと難しいということだったので、本当によかったなと思っておりますけれども、東京都の福祉保健局の実態調査、アンケートもやっていて、やはり一番高かった項目というのが、短期入所のショートステイサービスというのをすごく求められていたんですが、これってやっぱり冠婚葬祭とかで急遽預けなきゃいけないとか、そういう対応が必要になってくると思うんですけど、さっきご説明いただいた6泊7日というところで、この利用制限というのは、年間でこの6泊7日なのか、どういう対応をしていただけるのか、必要に応じてもう少し増やせるのか、ちょっとそこはニーズに柔軟に対応していただきたいと思うんですけども、どうでしょうか。

○宮原児童・家庭支援センター所長 委員ご指摘の年間の利用の分でございますが、すみません、資料にちょっと落とし込んではいないんですけども、1回の利用が最大6泊7日でございます、一人の児童の方に対しては年間でマックス30日までというところでちょっと上限を設けさせていただいております。おっしゃるとおり、あくまでこちらはレスパイトというところでございますので、もともと在宅レスパイトもある中で、本当に在宅だと息抜きがちょっとしづらいとか、委員おっしゃるとおり冠婚葬祭でこの日はどうしても家自体を空けなければならない。そういったところについて選択肢としてこちらの提供をさせていただきたいというところでございます。

○西岡委員 分かりました。30日というところで、12か月あるうちの1か月はレスパイトで利用できるというのはすごく大きな拡充だと思っております。訪問看護では対応し切れない部分をやっぱりそこがレスパイトで担っていただけるのかなというふうに思いますが、これ、コストって、訪問介護のときだと、たしか年間96時間までが無料なのかな。無料で、2時間オーバーすると180円程度の負担ということになっているかと思うんですが、この辺のコスト面というのが、ちょっと先ほどおっしゃっていたところで、ちょっと分かりにくかったので、実際の保護者負担ってどの程度のものになるのかというところを教えてくださいなと思うんですが、多分これって子ども医療受給者証とか身体障害者手帳で助成制度というのももちろん活用は可能だと思うんですけども、その辺についてもお願いします。

○宮原児童・家庭支援センター所長 保護者の方の実費の部分なんですけれども、まずもって今回入院は当然入院が必要という、まずお医者さんの診察を受けた上で入院を頂くという形になるので、通常の医療保険の対象ということですので、差額ベッド代等そういった通常の医療保険で賄えないものだけがまずもって出てくるというところでございます。

さらに、そのうちのここにかかる病院で用意できる医療用の消耗品ですとか、個室の差額ベッド代等の見合い相当については区のほうでご負担を差上げます。また、児童・家庭支援センターとしての制度ではございませんが、子育て推進課のほうの制度で今年度から始まりました入院時の食事等の、補助等も入っておりますので、実質の部分で保護者の方がご負担するというのが、先ほどちょっと書き上げさせていただいたレンタルの寝間着ですとか、あとは当日テレビをご覧になったりだとか、そういったところの細かな部分だろうというところを想定しておるところでございます。で、それについては本当に実費の部分なので、ちょっと病院さんでご相談ということにはなるとは思うんですけども、それほどご負担のない中でご利用いただけるような制度を構築させていただいております。

○西岡委員 ありがとうございます。もういわゆるオプション的なもので費用負担がかかってくるということで安心しました。それで、ごめんなさい。ほかの方もお待ちなので最後にしたいと思いますけれども、令和4年の第4回定例会のときには、答弁で、今後、0～2歳で抜け落ちていた部分なので、切れ目ない支援を今後行っていくためにも、外部有識者ですとか医療機関とか療養等の支援機関を構成員とする協議会を設置して、今後対応、支援体制の整備に取り組んでいきたいというふうに当時亀割部長だったのかな、答弁を頂いているんですけども、子ども発達支援センターのさくらキッズとか、そういう部分でも医療的ケア児への支援コーディネーターも配置させていただいたりとか、丁寧にはやっていただいていたものの、やはり今回このレスパイトというところで、日大さんになったその経緯というか、そこはどういうところ、協議会の中でも話し合われたのか、どういうところで決まったのか。やはりここがすごく要は丁寧に今まで対応していたとか、経験値が高いとか、どういう経緯でというところを教えてくださいと思います。

○宮原児童・家庭支援センター所長 ちょっと過去の経緯を詳しくまで、ちょっとお話は今できかねる部分があるんですけども、もともとその協議会の中でもこういったものが必要だということで、本来的には令和5年度中に予算化をし、これが展開できればというところだったんですけども、なかなか区内病院でこういった小児を受け入れていただけるというところで、実際に病院さんとの交渉で行き詰まっておった経緯がございました。ちょっとなかなか当たる中で相談をさしあげて一度いけそうかなというところがなかなか難しくなるといってを繰り返しておったんですけども、今回、名前を挙げさせていただいた日大病院さんのほうが、こういう事情なのでということで快く受け入れていただいたという経緯がございましたので、じゃあ早速ということで、矢継ぎ早ですけども、協定締結まで進んでいったところで皆様のほうにご報告をというところの次第でございます。

○西岡委員 ごめんなさい。最後にします。本当にありがたいと思っていて、むしろ前向きに今質疑をしていると思っただけいいんですけども、本当に日大さんにはむしろ感謝しておりますし、当時、確かに0～2歳、小さい子を受け入れるというのはもう他区に依存するしかないというところで、千代田区で受け入れられる病院がなかなかないというところで、当時質問して、令和4年からだから2年半、3年近くかかって、ただそれが長いかわかりませんが、実現できたというところがすごく大きな進歩だと思っています。本当に苦労しているという声をたくさん聞いていたので、本当によかったなというふうに思っています。

それで、今後なんですけれども、課題、今後通していろいろとまた出てくると思うので、そこは正副委員長を含めてですけれども、今後報告がありましたら、また教えていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○宮原児童・家庭支援センター所長 ありがとうございます。こちらせっかく制度ができたというところで、まずは先ほど申し上げました個別に在宅レスパイト等を実際に利用している方にこういった制度もありますよという提案をまずさせていただきながら、実際に利用者の方の本当のニーズ、こういったときにご入り用になるのかということもお話を聞きながら進めてまいりたいと思います。また予算・決算等の中でも委員の皆様にご報告を適宜差し上げるようなことを考えておるところでございます。

○池田委員長 牛尾委員。

○牛尾委員 私もこういう制度ができたということで、在宅より病院で診ていただけるということは本当に保護者にとっては安心できる、いいことだなというふうに思います。ただ、私が懸念しているのは、病院ですから、どうしたってベッドが埋まっているとか、そういった状況もあるかと思えますけれど、こういう制度ができて、利用したいときに病院の側の都合で利用できないということがあると、それは課題だなというふうに思っております。これからスタートするんでどういう状況になるのかは今後だと思うんですけれど、そこについての心配点というのは区としてはいかがなんでしょうかね。

○宮原児童・家庭支援センター所長 牛尾委員ご指摘の部分でございます。まず、日大病院さんも常にベッドが空いていてという状況ではないというのは我々も承知をしておるところでございますが、だからこそ利用については前月中にお話を頂ければなるべく調整をしますというふうにおっしゃっていただいているところでございますので、一旦予約が成立すれば、やっぱり駄目でしたということはないかなというふうに思っております。また、通常は一月前ということなんですけれども、のっぴきならない事情があった場合には相談は乗っていただけるというふうにおっしゃっていただいておりますので、そこはそれぞれのできる範囲の中でというところで考えております。逆に言うと予約が取れてこの日行きますよという形で病床をこちらのほうで押さえている場合には、ほかの方のご利用は控えていただいてこちらを入れていただくというような形でお話についているところでございます。

○牛尾委員 分かりました。それも今後の課題だと思うんで、ぜひ経過など、ご報告もしていただければと思いますんで、そこはよろしく願いします。

○宮原児童・家庭支援センター所長 先ほども答弁申し上げましたとおり、こちらの予算・決算等の場面でいろいろ数値等の報告もできるかなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○池田委員長 小枝委員。

○小枝委員 二つ分からないところがあるので、教えてください。真ん中から下のところに障害者総合支援法に基づく短期入所事業を利用できない状況というふうに書いてあって、これをちょっと、何というか、重度であるとか医療ケアそのものがもう既にそういうことなのかということもちょっと教えてください。

それから、2点目が、その下の利用者とのやり取りのところで、利用の承認又は不承認を通知となっているんですけども、不承認というのはどういう状況が想定されるのか教え

てください。

○宮原児童・家庭支援センター所長 まず、障害者総合支援法に基づく短期入所事業を利用できない状況ということで、こちら、医療的ケアの部分で通常のショートがご利用しづらい状況が想定されるだろうというふうに思っております。もう一つ。

○池田委員長 利用の不承認。

○宮原児童・家庭支援センター所長 大変失礼いたしました。利用の不承認でございますが、もともと医療的ケアのある児童ということで、幾つかこの医療的ケア児童に係る要件と、例えば胃ろうですとか、そういった形で幾つか項目を出させていただいております。例えば単に軽度の障害をお持ちの方でこれを使いたいという場合には、ちょっと趣旨が違うなというところで、それはお断りをさせていただきたいと思っております、あくまで区内在住の人工呼吸器等や経管栄養など、日常生活を送る上で常に医療的な処置や医学的な管理が必要な状態、こういった方の保護者の方、非常に毎日のご心労、おつらい方について、そこをケアしていきたいというところでやっておる事業でございますので、程度がそういったところに至っていない方については不承認をさせていただくようなことは想定しております。それ以外については、まずもってもともと把握しておる世帯からのご相談であれば、相談内容を基に、提携病院と連携をして、こういった形で対応できるかというところを考えさせていただきたいと思っております。

○小枝委員 分かりました。軽度である場合、このレスパイト、今回の医療ケア児のレスパイトって本当に素晴らしい前進だというふうに思いますし、その努力は大変なものだったと思いますが、昨今かなり各自治体のこうした制度が拡充している中で、逆に言うと、医ケア児のレスパイトができない区というのはあるのかなというか、かなり先駆けしたものなのか、それともほほほほもうこれでどこもできるようになったという状況なのか、恐らく千代田区の場合はやっぱりベッドであるとか、そういう問題が大きいと思うし、医ケアだけではなくて、障害児であっても、かつてであれば、何でしたっけな、明和病院のみということで、非常にそれだけ親からの苦情もあったんですね。苦情というか足りないとか、あるいはそういうことではなくて、もうちょっと生活的なものにしてもらいたいとか。ちょっとどんどん拡充されているとは思いますが、答弁いただいた軽度なのでこれが使えない方についてはどれをちゃんと紹介するとか、ほかの制度でできますよとか、当然ですが、あとは他区の状況というのが分かれば教えていただきたい。

以上です。

○宮原児童・家庭支援センター所長 まず軽度の方への他のサービス案内でございますが、例えば、先ほど申しあげましたベビーシッター利用助成についても、障害者の方について時間と年齢等も引き上げさせていただいたところでございます。また、発達支援センターですとか、区の障害者福祉課とも常に連携をしながら適切なサービスの提供に努めてまいりたいと思っております。

また、他区の状況でございますが、私の把握している限りですと、ほかに2区ほどこういった制度をやり始めたところを把握しております、江戸川区さんと品川区さんのほうで、それぞれ例えばリハビリ病院ですよとか、ショートステイの一環ですよという形はちょっと伺っているところですが、そういった中で同様の制度が始まったというところは聞いておるところでございますので、それがなければ、区のほうは少し早い段階で対

応させていただいたかなというふうに思っておるところでございます。

○池田委員長 はい。今の小枝委員の中で、ごめんなさい。利用の不承認の通知というところは適合に審査をするというところで、最初の説明では、これに対象になっている世帯が10世帯だということだったんだけど、そのところはその都度その都度で審査をするということになるんですかね。不承認という場合がありますれば、対象の家庭の方でもその都度その都度で合わないということもあり得るんですか。

○宮原児童・家庭支援センター所長 基本的に想定している世帯の方であればご利用案内はするんですが、先ほど申し上げました30日を超えた利用の申請ですとか、そういったものが出てしまった場合には、想定対象の方でもお断りすることはあるのかなとは思いますが、基本的に我々のほうで対象になるような世帯の方では、対面してそのままお断りということはあまり想定しづらいなと思っております。

○池田委員長 はい。ほかはよろしいですか。

副委員長。

○えごし副委員長 1点だけ。初めの事前相談、利用申し込みというのは、基本的には、例えば電話でとか、それか書面で申込書を出した段階になるのか、そこを教えていただいてもいいですか。

○宮原児童・家庭支援センター所長 副委員長ご指摘のところでございますが、我々が想定しているのは、まずもって最初に相談が入ってくるだろうと思っております。いきなり申請書が飛んでくるというよりは、もともと我々との関係の中でこういったところで困っているんですという話があったときに、この間差し上げたこういった制度がありますよという形で我々がちょっと差し向けさせていただいて、実際に利用申請書を書き方だとかをちょっと一緒にやらせていただいているというような形を検討しているところでございます。

○えごし副委員長 ありがとうございます。最近やっぱり書面で出すのも結構大変という方もおられて、できればそういう申請とか申込みも、例えばポータルサイトでできるようになったりとか、多分これから様々DXも進んでなるようにはなるとは思うんですけど、例えば先ほど途中で出た病院食、無料になるという事業もなかなか書面で出さないといけなから大変という声も聞いたりとか、またこのポータルサイトとかで申込みができればありがたいなという声も頂いたりしているので、また今後そういうのもぜひ検討していただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

○宮原児童・家庭支援センター所長 区のポータルサイトが通常のお申し込みだと非常に便利なものでございまして、先ほどのベビーシッターのほうはポータルサイトで考えておるところでございますが、こちらについて、あらかじめそのポータルサイトを開いてしまうと、先ほど申し上げた不適合といいますか、本来対象にならない方の申請がどんどん入ってきてしまう可能性もありますので、そこはちょっと少し慎重に考えさせていただきながら、利用者の方と実際にお声を聞きながら確認をさせていただければというふうに思っております。

○えごし副委員長 分かりました。

○池田委員長 はい。ほかはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。それでは、（2）千代田区障害児医療ステイ（レスパイト入院）事

業についての質疑を終了いたします。

以上で、子ども部の報告を終わります。

続いて、保健福祉部の報告に入ります。保健福祉部（1）高齢者等住み替え相談支援業務の委託について、理事者からの説明を求めます。

○岡福祉政策担当課長 保健福祉部資料1に基づきまして、高齢者等住み替え相談支援業務の委託についてご説明をさせていただきます。

本事業は、令和7年度予算の拡充により、高齢者等の住み替え相談について業務委託を行うこととしまして、支援体制の強化を行うことを目的とした事業となります。

項番の1、概要でございます。これまで千代田区では民間賃貸住宅への住み替えが困難な方々を対象にしまして、住まいに関する相談対応などの支援を行ってまいりましたけれども、ご相談者の年齢などの状況であったりとか、家賃水準等の地域特性もありまして、住まいの確保が難しいという状況にありました。そこで高齢者等の住宅確保に配慮が必要な方に対する相談対応などの支援を東京都が指定する居住支援法人に委託を行うこととすることにしまして、専門的な知見を生かして相談者への支援を行うことで、こうした配慮が必要な方の民間賃貸住宅への円滑な入居の支援であったりとか、入居後の生活の安定を図るための体制、これを強化したいというふうに考えております。

次に項番2、受託事業者・業務内容でございます。プロポーザルの結果、受託事業者は株式会社ホッとスペース東京が選定されました。業務内容としましては、まず住み替え相談支援としまして、専門的な知見を持った相談員が住まい探しの助言や希望に基づく物件の調査、相談者への物件紹介を行います。続いて、不動産店や物件の見学への同行の支援でございます。住居の手すりや段差などのバリアフリーの状況であったりとか、徒歩圏内に位置している施設等の周辺環境など、相談者ご自身では気づきにくい点を含めまして、必要な情報を必要な関係者に共有できる体制を整えまして、相談者様と不動産店の協議が円滑に進むよう補助を行うといった趣旨での同行支援でございます。

そのほか、契約手続の支援、生活相談の支援なども行いまして、その他必要に応じて高齢者あんしんセンター等の関係機関への情報共有もしっかりと行ってまいります。

相談窓口の開設日につきましては8月5日としておりまして、項番3の周知でございますけれども、区のホームページや広報千代田8月5日号への掲載、そしてあんしんセンター等への相談窓口のチラシの配架による周知などを予定しております。

裏面はプロポーザルの結果の概要となりますので、ご参照ください。今後、本事業を通じて住み替え相談業務の一層の体制強化に取り組んでまいりたいと思います。

説明は以上でございます。

○池田委員長 はい。説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○おのぞら委員 プロポーザルの評価結果について、ちょっと教えていただければと思います。採用事業者が417点で、不採用事業者の②番が411点、やや僅差で決まったと思うんですけども、ちょっと大きく違うのが、組織・担当者評価のところですね。採用事業者さんについては業務執行技術力は5点で主任担当者5点と不採用事業者の②番よりもちょっと低かったんですけども、この辺りは問題ないと判断されたと思うんですけども、いかがでしょうか。

○岡福祉政策担当課長 プロポーザルの結果、不採用事業者②のほうが一定点数が高いと

いうところになってございますけれども、今回、選定されましたホッとスペース東京さんは、職員数としては2名と少ない体制であるんですけども、実績として年間600件の相談を受け付けて200件を成約に結びつけていると。10年間ほどのこういった業務継続の実績というのもありまして、持続性のある取組というのが期待できるところでございます。この組織・担当者評価につきまして申し上げますと、提案書を頂いて、そこで書かれている組織の体制であったりとか、そういったものを頂いて機械的に評価をするところでございますので、その下の提案内容の評価、こちらのほうはプレゼンをさせていただいて、独自性であったりとかそういったものを評価する部分なんですけれども、そこでこのホッとスペース東京さんの実績の部分が高く評価させていただいたというところでございます。○おのぞら委員 ありがとうございます。そうすると、提案内容評価が特にすばらしかったということだと思っておりますけれども、特にこの中で企画力・独自性が高いと思っておりますね。この事業者さんの、何ですか、強みというかユニークさというのは何かあったと思っておりますが、その辺りはいかがでしょうか、期待されるところでですか。

○岡福祉政策担当課長 この事業者さんは葛飾区さんでも事業を委託して受けておられるんですけども、やはり東京都の指定を受けた居住支援法人ということで、こうした配慮が必要な方に対する居住支援を実際に行われている実績、ここのPRをしっかり今行われている実績に沿って丁寧に説明をさせていただいたというところをもちまして、我々、住み替え相談支援の業務、やはり地域特性などを踏まえますとなかなか難しいところがあるというところがありますけれども、その点を酌んだ形で、なかなか住宅確保が難しいという方に対する行き届いた配慮というのを提案の中で示していただきましたので、そちらのほうを企画力、独自性の評価として評価させていただいたところでございます。

○池田委員長 牛尾委員。

○牛尾委員 私もこのホッとスペース東京さんの実績はどうかとお聞きしたかったんですけども、先ほど600件の相談のうち200件、成約に至っていると。葛飾区などでも実績があるということでしたけれども、やっぱり都心は都心区でのなかなか難しさがあると思っておりますけれども、都心区では何かしら実績とかはあるんですかね。

○岡福祉政策担当課長 申し訳ありません。都心3区での実績という形ではちょっと今持ち合わせている部分はありませんので、ちょっとこちらのほう、まさにおっしゃるとおり、都心ならではのといえますか、そこでの難しさというのもあると思いますので、今後、事業を実施してまいりますけれども、ちょっとその点の手当てというのはしっかりできるように、我々のほうもサポートしていきたいと思っておりますし、ちょっとこちらの事業者の対応力というところを研究してまいりたいというふうに思います。

○牛尾委員 高齢者の方々の相談にしっかり乗っていただけているというのはこの数字を見ても分かると思っておりますけれども、問題は、物件を提供するためには、やはり不動産屋さんとのやっぱり協力、不動産屋さんの協力、不動産屋さんとのつながり、こういうのが必要になってくると思っておりますけれども、その点については、このホッとスペース東京さんはそうした不動産分野とのつながりというのは一定程度あるというふうに考えていいかどうか。

○岡福祉政策担当課長 その点につきましては、実際に面談の相談であったりとか、成約に結びつけているこれまでの実績がありますけれども、豊富な不動産店との協力関係とい

うのができておりました、ホッとスペース東京さん独自でも一定不動産店との連携によって物件を持っているといいますか、保有しているといいますか、紹介できる物件のストックというのはしっかり担保されているというところではございます。

○牛尾委員 ぜび千代田区内、都心の物件を持っている不動産屋さんとかオーナーさんとのつながりというのも今後つくっていったって、そのお手伝いというかな、支援もしていただきたいんですけども、どうしてもなかなかやっぱり都心の場合はオーナーさんがやはりそうした方々の入居を拒むということはなかなか根強くあるというふうに思います。その点で、これはまあ所管が違ふんですけども、まちづくり部のほうで住宅支援、第4次の住宅計画ができて、民間の空室をどう活用するかというのもそこで話し合われていると。だから住宅課やそうした部を越えてのやっぱり協力というのが必要になってくると思うんで、そこはしっかりお願いしたいと思いますけど、いかがですか。

○岡福祉政策担当課長 住宅課のほうでは家主サポート保証事業なども今年度開始されましたけれども、まさにそういった取組を相互に連携をさせてこうした支援につなげていくということが非常に重要だというふうに考えております。住宅課も参加して、不動産の団体であったりとか、福祉の専門家、参加者の居住支援協議会というのを年2回開催しておりますけれども、ホッとスペース東京で行っていくこの居住支援の事業の中で、住宅課との連携というのもその協議会での議論を踏まえながらより取組を進めていきたいというふうに思っております。

○池田委員長 西岡委員。

○西岡委員 ちょっと1点だけ確認なんですけれども、これ、区としてはどのくらいの需要の数を見込んでいらっしゃるんですか。

○岡福祉政策担当課長 これまでの相談に来た件数というのが、令和4年からスタートしていますけれども、合計で20件というふうになっておりました、そこまでは多くない件数ではございます。ただ、今回、居住支援法人に委託を行った趣旨としましては、相談者さんの相談のハードルを下げるというところを、やはり不動産店に自ら飛び込むという形になりますと、なかなかその心理的な負担であったりハードルがあるという点を、この専門家の方々との伴走支援を行うことによって、そのハードルを下げるという目的もございまして、こちら周知をどんどん行っていきながら、こうした申込みの件数というのを増やしていきたいなというふうには考えておるところでございます。ただ一方で、やはり千代田区の家賃水準などの地域特性もありますので、そこが本人の希望に合ったものになっているかどうかというのは丁寧に説明をさせていただきながら取組に当たっていくことが非常に重要だろうというふうにも考えております。

○池田委員長 小枝委員。

○小枝委員 この制度は不動産屋の相談には乗れるのか、何だっけ、居住支援協議会でしただけ、そちらの会議体には入るのか。というのは、地元の不動産屋さんで個別にこうした民間、今、制度がなくても低家賃住宅を探してはお世話してくれている方がいらっしゃいますよね。そういう人たちとの連結がどういうふうになるのかなということが気になることと、それから、やはり別の不動産屋さんでは、ご紹介してしまって、独り暮らしで、夜、不安で、結局自分たちも見守りしなきゃいけないみたいな状況もあって、そういうところの連結がどういうふうになるのかなというところが気になることなので、ち

よっと実務的にどんなふうに動いていくのか、まだ理解できていないので教えてください。

○岡福祉政策担当課長 今回の業務につきましては、従来は区の職員が相談者さんへの対応と、あと不動産店が紹介する物件の同行、こちらのほうを行っておりまして、その後は見学の同行以後は手続については不動産店と相談者さんの間でやっていただくという形になっておりました。これが、今回この法人に委託することによって、もうこの専門的な知見を持った法人が物件の同行以降の部分も不動産店と相談者さんとの調整、ここの部分もしっかりサポートすること。これは不動産店にとっても非常にメリットが大きい部分かなというふうに思っております。やはり専門的な知識を必要とされる業務ですので、そこで居住支援法人であるこのホッとスペース東京さんがサポートを行うことというのは、不動産店にとっても調整を行う上での非常にメリットであろうというふうに考えております。なので、物件としてももちろん独り暮らしの今回高齢者の方を受入れをするということを目的とした事業ですので、その点に対する不動産店、あるいは家主さんの不安感であったり負担感というのは非常にあるだろうというふうに思っております。その点をこの専門家によってその負担を軽減できるようなサポート、アドバイスを行うことも事業の中に含まれておりますので、こういった対応をもって、相談者さんだけでなく、不動産店の負担軽減にもつなげていきたいなというふうに思っております。協議会につきましては、すみません。ホッとスペース東京さんはオブザーバーとして参加していただくという形になります。

○池田委員長 小枝委員。

○小枝委員 ホッとスペースさんというのは存じ上げませんが、渋谷区なんですよ。そうすると、電話をかければいいのか、どこにどう存在するのかの具体的なイメージが湧かないんですが、すみません。

○岡福祉政策担当課長 失礼しました。法人の居住は渋谷区でございますけれども、相談自体は原則的に千代田区役所で受け付けることとしておりまして、まずは区の予約窓口に、ホームページ等で周知する区の窓口に電話いただいて、日程調整をしてホッとスペースさんが区の役所に来ていただいて、そこで相談を行うというところからスタートしますので、少なくとも相談者さんに渋谷まで出向いていただくようなご負担をかけるような枠組みではなく、これまでの区のほうで相談を受け付けるところからスタートするという形で進めていく予定でございます。

○小枝委員 なるほど、なるほど。だんだん分かってきました。そうしたら、この契約の内容なんですよけれども、もともと3社からの応募があったぐらいですから、こういった業務というのも一定程度法人化が進んでいるんだなというふうに思う、新たな業務ですよ。いわゆる不動産屋さんというのではなくて支援業務なわけですよ。そういったノウハウを持っている。だけれどもここは人的資源が非常にまだ薄くて、そこが点数が低い。であれば、本当だったら、何でしょう、マンパワーに対する補助経費であるとか、そういう具体的な予算づけがされていて、もう少し安定した体制で相談業務ができるようにならないと、電話があって区が受け付けたらそのときだけ出てくるという相談の在り方というのは、若干やっぱり遠いですよ。まだお試し期間なのかもしれないけれども、これ1年やって安定するかどうかによって来年も決めるということになっていますから、そうした、何でしょう、契約上の予算措置というのは何と何と何に今回はかけたのか、そこら辺を聞

いておけば、また来年の段階で何が足りないかを議論できると思うので、ちょっとその骨組みというか、枠組みを教えてください。

○岡福祉政策担当課長 今回の事業の補助金の用途をどういった形で使うかというのは、これからホッとスペースさん、業務を進めていただく上ですり合わせをしていって、そこで足りない部分があれば、不足の部分があれば、今後の予算編成などでも検討の材料とさせていただきますというところでございます。まずはそれが前提とした上で、今、委託業務を来月からスタートするというので、前々にホッとスペースさんとすり合わせ、打合せなどをさせていただいているんですけども、結構職員数としては少ないんですけども、我々の細かいニーズにも親身に対応していただいて、相談体制としても、アルバイトさんを含めて、こうした過去の実績に裏打ちされるような、しっかり十分な対応を行っていただいているようでございますので、まずは1年間このホッとスペースさんの取組を見ながら、サポートできる部分を我々としてもないかという部分をしっかり考えてまいりたいというふうに思います。

○小枝委員 なるほど。すみません。具体には、大体、今度8月からでしたっけ、ですよ。そうすると8か月でどのぐらいの補助というか委託料ということで考えていますか。

○岡福祉政策担当課長 予算額としては530万円でございます。総額単価、一括300万プラス単価が面談であったり成約であったりとか、そういった実績評価の部分ですね、数万円ずつ単価を設けているところでございます。

○小枝委員 はい、分かりました。

○池田委員長 はい。ほかはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。それでは、（1）高齢者等住み替え相談支援業務の委託についての質疑を終了いたします。

次に、（2）（仮称）神田錦町三丁目施設整備について、理事者からの説明を求めます。

○緒方障害者福祉課長 保健福祉部資料2-1及び2-2に基づきまして、（仮称）神田錦町三丁目施設整備について報告いたします。

項番1、進捗状況でございます。旧千代田保健所の解体工事は、主にBG工事と呼ばれる地中障害物の撤去を施工中でございまして、9月には解体工事は完了しまして新規施設工事の着工を予定しております。

項番2、住民説明会概要でございます。前回の常任委員会で開催について口頭報告しておりました8回目となります住民説明会を7月の6日に開催いたしました。資料2-2は当日配付しました資料でございまして、こちらに基づいて説明いたしまして質疑応答を行いました。参加者は16名。おおむね近隣住民の方や障害をお持ちの方が親族におられるという方々でございました。

主な質問や意見ですが、記載しておりますとおり、やはり現在も解体工事の音でご迷惑をおかけしておりますので、解体工事と比べて騒音がどうなるのかですとか、工事中計画地の周辺において歩行者は通行可能かなどといったご質問を頂きましたので、一つ一つ丁寧に回答いたしました。

項番3、今後のスケジュールでございます。8月に実施設計が完了いたしまして9月に解体工事完了・新規施設建設工事着工、令和9年3月竣工という予定となっております。

ご報告は以上でございます。

○池田委員長 はい。説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○小枝委員 実施設計が8月完了というふうになっております、この資料によるとね。もう本当に完了なんだと思うんですけど、これはSPCでしたよね、SPC事業というような形で……

○池田委員長 DBOです。

○小枝委員 あ、DBOか。DBO事業だったんだ。そうすると、民間が主体的にやっていくことになる場合に、これは過去の教訓で、ないと思うんですけど、設計図をかなり詳細に見ないと、何らかの利用用途に必要なものがなかったり、以前だったら、細かいようだけれども、委員会とかでもそういったラフな動線とかを見て、ここのところはこういうふうにしたほうがいいんじゃないかみたいな、エレベーターの利用がここは何のエレベーターにするのかとか、ここのコーナーはこんな、例えば図書を置いたらどうかとか、そんなようなやり取りもあったんですけど、説明会を何度もやっているから、その中でかなり利用者目線でこなされているのかも分からないし、委員会がそんなことまでじゃあ分かるのかということとそうでもないのかもしれないですけども、大事なことは、かなり複眼的に利用者目線、あるいは住民目線、で、障害者の目線と、あとは高齢者が利用するわけですよ。あとは住民の方たちもボランティアで入ったり、あるいはサロンとして活用することもあるのかもしれない。そういうような動線がうまくスムーズにしているのかというのは、過去に出来上がった後に、「ああ」ということがあったので、これはないですよ。ねというか、どこがそういうことについて詳しくやっているのかなということをおきたいと思います。

○緒方障害者福祉課長 まず、DBOという千代田区初めての工法ですのでご心配なさっていることかと思われま。こちらにつきましては、私どももやはり建築職がないという、事務職、福祉職のメンバーでやっておりますので、コンサルタントも入れて見てもらっていますし、あとは、やはり今7回目の住民説明会と、そういった条例に基づきます早期周知条例ですとか、中高層条例に基づく説明会も別途開いております。また、今度8月の29日なんですけれども、障害のある方をお持ちの保護者などから、前から実際の運営について、おっしゃるとおり動線がどうなっていてとか、どういう運用するかの意見交換の場が欲しいという声がありましたので、8月29日には実際に障害者の部分ですけど運営することになっている平成会との意見交換会を開催する予定になってございます。

○小枝委員 ありがとうございます。いろいろ高さとか騒音とかで対応しているうちに、そういう実際に中をどういうふうに過ごしていくのかというような点検が遅れてしまう場合が間々ありまして、そういう点では設計図のラフなものをちゃんと取り入れながら、もう、何と、何と、これをみれば分かります、もう公開しちゃうぐらいの感じで目線を入れていったほうがいいときもあつたりするんですね。物によるかもしれませんが、細かいことをとやかくは言いませんが、たしか作業内容が、何でしたっけ、変わったかもしれませんが、植物栽培みたいなことを考えているような最初提案内容があったと思うんですけども、その辺も変わったのかどうかとか、何、DBOということで、情報入手が難しいだけに、説明会で物を言えるって結構限定されちゃうんですよ、時間が注目される場所に集中しちゃうので。でも、実際は本当にどういうふうに使って行くのか

これから何十年もというような目線で、外の空間一つ、入り口一つ、あとはカフェあるなし、上との連結の仕方、それからごみの動線、それと屋上の使う使わない。そうしたことも、あと光の入る入らない。こういうことって結構心地よい空間をつくる上で、当然専門家やコンサルが入っているからうまくやっているだろうと人は思うんですけども、そうでないところの視点も意外と入れていく中で大詰めの感覚を共有していくということは、割とイエス、ノーじゃなくて、もう前に進むわけだからとても大事なところだと思うので、それは正副委員長のほうでご確認いただいているのでしょうから、基本的にはお任せいたしますが、説明会だからといって住民任せではなくて、やっぱり出来上がった後に、「ああ」ということがないような形を取っていただきたいなというふうに思うので、そこはお願いしておきます。

○池田委員長 ご指摘のとおり、今回このDBO方式というのが、高齢者施設と障害者施設と事業者さんが既に入っていて、しかも全体を把握しているのがこの新しい事業者さんということで、3者の事業者が入っているところで、かなり特例なところなのかなというところはありつつ、近隣の対策もしっかりこれまで何回も説明会をしてあるというところでの対策はしているものの、これから解体が終わって上物が上がってくるというところではしっかり注視して、引き続き神田警察通りのところの中心になる建物になると思いますから、そのところは、今回、平成会というのはあくまでも障害者施設のほうの事業者さんの意見交換会ということですから、そのところも全体の事業者さんが把握をしながら、どこまで、レイアウト等はまた別のところがやるにせよ、ちゃんと中心にまとめているところはスターツさんなんでしょうから、そのところも合わせてまとめを見ていかないと、私たちが確かに、図面というのは以前から出されたもので、何も報告がないということは変更がないということだなという認識をしておりますから、その辺りを含めて一度答弁をお願いできますか。

○緒方障害者福祉課長 まず、先ほど小枝委員がおっしゃった水耕栽培ですとか、そういったところは引き続き変更なく、障害者の皆さんにそういったところで生産した植物で、できたらある程度の賃金ができるようにしていきたいという計画どおりに今のところは進行しております。また、委員長ご指摘のとおり、やはり図面ですとかは変更がないので出していないというのはそのとおりでございます。これまでも住民説明会でこういう図面を出しました、こういう平面図を出しましたというのはそのたびごとに委員会でもご報告させていただいております。やはり法の様々な規制がある中で、必ず入れなきゃいけないものがある一方で、やはり北側のマンションの皆様からは、もう少しでも見えなくして、こういうガードをつけてほしい、窓は曇りガラスにするようにとか、もう細やかなご指示を頂いて、一つ一つもう本当に設計者はもう1センチでも南側に寄せるようにですとか、様々な工夫と制約の中で皆様に愛されるような施設を造るように、みんなで力を合わせておりますので、やはりご指摘のとおり、委員長にもまた何かの折には設計図などの見せる機会を設けるなど、間違いのないように進行していることが分かるように進めていきたいと考えてございます。

○池田委員長 はい。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかによろしいですか。

○白川委員 2点お伺いいたします。1点は、施設の前に風ぐるまのバス停があると思う

んですが、工事中はどうなるかということと、あと、前に学校がありますので、授業時間のときの防音対策についてご説明をお願いいたします。

○緒方障害者福祉課長 工事予定地は、もともと保健所でございますので、風ぐるまのバス停があります。そこにつきましては、特に何か運行の支障にならないようなスケジュールで施工する予定になってございます。2点目の前に学校があるという点でございますけれども、そんなに、まずは、一番今まで音が大きかったのが解体工事でございます。これから新規工事に入るといふところにつきましては、ご指摘のとおり、やはり授業に支障があるような音を出してはなりませんし、私ども、まず基本的には騒音・振動規制法の上限の値をしっかりと遵守して工事施工してございますので、ご迷惑にならないような進行を遵守していきたいと考えてございます。

○池田委員長 はい。ほかはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。それでは、（２）（仮称）神田錦町三丁目施設整備についての質疑を終了いたします。

次に、（３）高齢者食事支援サービスの食事提供停止に伴う対応について、理事者からの説明を求めます。

○辰島在宅支援課長 すみません。高齢者食事支援サービスの食事提供停止に伴う対応につきまして、保健福祉部資料3に基づいて説明をいたします。

項番の1、サービスの概要でございます。高齢者食事支援サービスは、65歳以上の独り暮らしの方、または高齢者のみ世帯の方で、在宅での食事の確保に支援が必要な方に食事の個別配達を行いまして高齢者の在宅生活を支援しているものでございます。現在3社と契約をして実施しております。

項番2の経緯でございます。7月9日の午前10時過ぎに、事業者の一つ、桜フーズから在宅支援課に連絡が入りました。内容でございますが、前日の7月8日に足立区内のデイサービスに弁当を提供したところ、デイサービスの利用者が嘔吐、下痢などの症状を呈しているという連絡があり、店舗を管轄する文京保健所に「本日の食事提供を行ってよいか」相談をしたところ、一連の調査が終了するまで提供を停止するという指示があったために食事支援サービスができなくなった、という内容でございました。このため、9日から他事業者の弁当を調達し、対応をまいりました。

同日の午前に、東京都から生活衛生課に、当該事業者の提供した弁当を喫食した人が体調不良を訴える旨の連絡が入りました。在宅支援課と生活衛生課で連携をしまして、サービス利用者で体調不良を訴えた方の確認を開始しまして、当日の利用者18名のうち3名が体調不良を訴えたことを確認しました。また、文京保健所で調査を開始しました。体調不良を訴えた3名の方でございますが、いずれも軽症で、現在、快復されております。また、3名確認をいたしました後、増えているという状況ではございません。7月の17日に、文京保健所は、17日から3日間の営業停止処分にすることを発表いたしました。

項番の3、今回の事案を受けてでございます。作業場所の状況等について、衛生面で十分な対応が図られているか丁寧に確認を行い、高齢者に安全な食事の提供が確保できるように取り組んでまいりたいと考えてございます。

説明は以上でございます。

○池田委員長 はい。説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○ふかみ委員 区ではこのサービスを令和5年度では229名の方が利用されているということで、とても大切なサービスだと認識しております。いつもありがとうございます。

質問なんですけれども、こちら足立区でそのようなことが起こったことにより、こういった対応がされたということなんですけれども、当日利用者18名のうち3名が体調不良であったということなんですけれども、これは千代田区での体調不良者という理解でよろしいですか。

○辰島在宅支援課長 今、委員からのご案内のとおり、当日、千代田区でサービスを利用された方18名のうち3名が体調不良を訴えたというところでございます。

○ふかみ委員 ありがとうございます。そのときから結構日にちがたっていると思うんですけども、こういったことに関してはリスクがあるのでどんどんサービスが縮小してしまっても残念なことなので、しっかりと原因追及をすることが重要だと思っておりますが、7月といいますと、非常に暑い日が続いております。これが本当に食事であったのか、それとも熱中症のようなほかの病気であったのか、こういったお弁当を作る会社の問題であったのか、それとも配送業者の問題であったのか、様々な原因が考えられると思うんですけども、どのような、結果報告って既にあったのでしょうか。

○市川生活衛生課長 この件につきましては文京保健所が施設の調査や何かを一括して行っているんですけども、その内容ですと、まず体調不良になった原因につきましては、黄色ブドウ球菌という食中毒を起こす食中毒菌が、患者さんの体内、糞便から検出されております。

それから、また原因なんですけれども、まだ調査中で詳しいところは最終的な報告は出ていませんが、処分を行いました7月17日時点の発表では、従業員の方のうち下処理及び当日の弁当の調製を行った従業員2名から黄色ブドウ球菌が検出されていて、そのうちの1名は手の指に傷があったということが分かっております。

黄色ブドウ球菌は人間の常在菌でして、傷口や何かがあると、そこに多く繁殖する菌ですので、手洗いや何か不十分だったか、あるいは当日物すごい暑い日でもありましたので、調製してから、実際、弁当が配送するまでの過程で菌が増えて、それで食中毒を起こしたというふうなことが考えられると思います。

○ふかみ委員 ありがとうございます。本当に暑い日が続いていて、こういったことが起こると大変なことになると感じております。夏だけのお弁当の冷凍サービスも含めて、いろいろご検討いただければと思っておりますが、現在では結果待ちということなんでしょうか。どのような検討って、されていらっしゃるんですか。

○池田委員長 保健所の調査の結果をということなんでしょうかね。

○辰島在宅支援課長 今、保健所のほうからの生活衛生課長からもご答弁がございましたように、その調査についてはまだ続行しておりますので、そちらの検査結果を待ちたいと思っておりますけれども、現在、お弁当を配達するに当たって、例えば保冷剤はもちろん入れているんですが、基本この事業が、高齢者の方に直接手渡しをする。要は安否確認の意味も踏まえた事業でございます。なので、そういったところで冷蔵庫に入れましょうというようなことを改めて直接伝えるのもそうですし、あとはお弁当の箱になるところに分かりやすく表示をするようなことをちょっと工夫をしながら、対応を今ちょっとしているところ

でございます。

○ふかみ委員 ありがとうございます。以上です。

○池田委員長 以上ですか。

○池田委員長 牛尾委員。

○牛尾委員 まず、文京保健所が所管ということですから、要するにこの事業者が弁当を作っている場所が文京区ということで、文京が担当ということよろしいんですか。

○市川生活衛生課長 はい、そのとおりでございます。

○牛尾委員 これ、契約業者が3社となっていますけど、残りの2社はどちらになりますかね。

○辰島在宅支援課長 所在は港区及び新宿区になります。

○牛尾委員 文京の会社が足立区ということは、かなり手広くやっているのかなというふうに思うんですけども、まあ、人が作るものですから100%安全ということは、本当は100%安全じゃなきゃいけないんですけども、やっぱりこうしたことが起こり得ますよね。その際、やっぱり、今回、文京区の保健所が調べるということですから、十分な対応が図られているか丁寧に確認するといいますけれども、千代田保健所はどのように関わるんですかね。結局、文京の調査待ち。千代田の保健所からは何か調査をするとか、そういったことはできないんですか。

○市川生活衛生課長 まず、施設の衛生管理や何かの確認につきましては管轄であります文京保健所が対応することにはなっております。

○牛尾委員 これ、例えば千代田区でこういった事業をしているところというのはないんですか、食事提供の。

○辰島在宅支援課長 現在、当課で実施しているサービスに関しましては、千代田区に本社があるというところはありません。

○牛尾委員 なるほどね。やはり区民の方が利用するに当たって、なかなか区民の方に影響があるのになかなか千代田区の保健所が調査できないというのは、なかなか、何と申しますかね、どうなのかなというふうに思うんですけども、本当は区内の業者が区民の方にお届けするというのが一番、こう、運ぶ時間も短いですし、顔が見えるなというふうに思うんですけども、これは致し方ないですけど、そこは区としても他区任せにしないような、何と申すのかな、そういったことができないものなのかなと思うんですけども、そこはもう、しょうがないんですかね。（発言する者あり）

○辰島在宅支援課長 まず、お弁当のほうの事業者さんにつきましては、大変申し訳ありません。現状はそういう形でございますが、何か発生したときには迅速な対応ができるように業者のほうにも申し伝えながら進めていきたいと思っております。また、保健所さんのほうも多分文京保健所のほうが所管ということ、管轄ということでやっておりますけど、千代田区の保健所が全く何もしていないわけでは決してございませんので、そこは連携を図りながら進めておりますので、引き続き対応していきたいと思っております。

○市川生活衛生課長 それからあと、実際、事件が起こってしまった後の基本的な対応は、先ほど申し上げたとおり、実際施設のある、所管、管轄する保健所になるんですけども、こういった高齢者を対象など、弱者に対して提供する食事について、どのような事業者を選定するのかということにつきましては、衛生的な観点から、生活衛生課のほうとしまし

てはアドバイスなどを行いまして、一緒に選定には協力していくつもりでございます。

○池田委員長 はい。ほかはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。それでは、（３）高齢者食事支援サービスの食事提供停止に伴う対応についての質疑を終了いたします。

次に、（４）千代田区新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について、理事者からの説明を求めます。

○菊池地域保健課長 それでは、千代田区新型インフルエンザ等対策行動計画の改定につきまして、保健福祉部資料４に基づきましてご説明をさせていただきます。

まず、項番の１、改定の背景と趣旨でございますが、区では、平成２６年に千代田区新型インフルエンザ等対策行動計画を策定しまして、新型インフルエンザ等が発生した場合の措置や対策をお示ししてまいりました。その後、令和２年頃から世界的なパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症への対応などで積み重ねてきました知見や経験を反映するために、今般、本計画を改定するものでございます。改定に当たりましては、国の計画、東京都の計画との整合性を図りながら改定作業を進めてまいります。

次に項番の２、本計画の目的ですが、（１）新型インフルエンザ等の感染拡大の抑制と区民の生命及び健康の保護。これに加えまして（２）区民生活及び区民経済に及ぼす影響の最小化を目的といたします。

項番の３、計画期間ですが、令和８年４月１日から施行することとし、今後の新型インフルエンザ等の発生状況や政府行動計画、都の行動計画の改定を踏まえまして必要に応じて見直しを図ってまいります。

項番、飛びまして５になりますが、改正のポイントになります。まず（１）平成２６年当初計画を策定して以来の大幅な改定ということで、令和６年７月の政府行動計画の改定、それから令和７年５月の都の行動計画の改定を受けまして、区の行動計画としましても策定以来の大幅な改定を行います。

次に、（２）発生段階の考え方を整理いたします。全体を３期に分けまして、準備期、初動期、対応期に分けまして、特に準備期の取組の記述を充実させてまいります。

そして、（３）対策項目の拡充としまして、新型コロナウイルス対応で課題となった項目を中心に項目を独立させまして、８項目から１３項目に拡充し、その取組の事項をきめ細やかに記述してまいります。

戻りまして、項番４でございます。計画を構成する主な内容ですが、（１）発生段階の考え方。（２）各対策項目の考え方及び取組。（３）区政機能を維持するための区の危機管理体制。（４）対策推進のための関係機関の役割分担などを中心に記述してまいります。

最後に項番の６、策定のスケジュールです。まず今月より関係所管との協議を開始しまして素案の内容を検討してまいります。そして、１０月に区内の医療従事者等からなる新型インフルエンザ等対策医療連携会議を開催しまして、専門的知見を頂戴します。その後、来年２月にパブリックコメントを実施し、３月に計画策定完了を見込んでおります。

説明は以上でございます。

○池田委員長 はい。説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○おのぞら委員 確認ですけれども、こちらの対策行動計画については、予防時点、予防で

すかね、広まる前というのは特に含まれないということによろしいですかね。

○菊池地域保健課長 こちらは対策の中に発生段階の考え方を記述させていただいておりました、発生前としまして準備期の段階で様々な人材の確保、それから実践的な訓練の実施などを準備期に行うということをしていただいております。こういった平素からの準備を踏まえまして、いざこういった感染症が拡大したときにきちっと対応ができる体制を構築してまいりたいと考えております。

○おのでら委員 ちょっと、以前も質問させていただいたところなんですけども、やっぱりインフルエンザが広まらない。また、あるいは症状を軽減させるとか重症化させないという観点からは、インフルエンザの予防接種、こちらを進めることが大切だと思うんですね。今、千代田区では0歳から18歳と、あと65歳以上が基本的に助成を受けてインフルエンザの予防接種を受けられるということなんですけども、ここの対策行動計画の目的の（2）のところにもありますように区民生活及び国民経済に及ぼす影響の最小化という意味では、生産年齢である15歳からになるんですかね、64歳までの方についても何らかの形で助成を行うことで、よりインフルエンザの予防接種を受けていただいて、あまり広まらないようにするとか、そういったことも大切だと思うんですけども、この辺りいかがでしょうか。

○菊池地域保健課長 こちら、委員ご指摘のワクチン対応についても触れさせていただくところでございます。まず準備期、先ほど申し上げましたように、平素からの準備ということで、訓練や人材の確保といったところをさせていただきます。また、初動期の段階で、感染症が発見された段階で、これはワクチンが有効かどうかということを経験のほうで判断することになります。それを踏まえまして、その次の段階、対応期としまして、このワクチンを使った封じ込め、また蔓延の防止対策といったところを取るものとなっております。こういったワクチン対応については、この対応期の中で我々も実施してまいりたいと考えております。

○高木地域保健担当部長 ただいまのご質問、現在のインフルエンザの予防接種に対する助成についてのご意見だったかと思っておりますので、私から現状について多少補足をさせていただきます。

インフルエンザのワクチンでございますが、ご指摘のとおり高齢者は定期になっておりました、区ではお子さんに対する助成を行っております。インフルエンザのワクチンというものは毎年お受けいただくようになっておりますけども、それは、毎年、次はどんな株が流行するかというような流行予測をしておりました、株を決定して接種しているものでございます。新型インフルエンザといいますのは、今まで誰も経験したことがない新しい型のインフルエンザということでございますので、従来のワクチンというのは有効でないということで、発生してからそれに対するワクチンができましたら、ただいま地域保健課長がご答弁申し上げたとおり、ワクチンの接種についての対策もつくっていくということでございます、現在のものを活用できるかといいますと、そういったことではございませんので、発生後の対応になってくるということでございます。

○池田委員長 白川委員。

○白川委員 ご説明の趣旨なんですけども、これ、行動計画というのが2015年につくったもので、その後に新型コロナウイルスのパンデミックがあったので、そこで見地が積み重

なったので、そのときの経験を入れるということが今回の趣旨でよろしいでしょうか。

○菊池地域保健課長 当初策定しました年度が平成26年ですから、通常ですと、大体五、六年たったごとに見直しを図るところなんですけど、ちょうどこの令和2年頃にパンデミックが起こりました。こういった事象を踏まえましてこの改定を行うものでございます。

○白川委員 ありがとうございます。今回のコロナウイルスのパンデミックでよく分かったんですけど、SNSというのがかなり大きな力を発揮するようになって、これ、よしあしはあるんですが、かなり新型コロナウイルスに対するデマというのも広がりまして、そこで不安をあおったという部分があります。あるいは、そこで一番大きかったのは、ワクチンの副反応についてのかかなりオーバーに表現した情報と、あるいはうそも混じっていましたが、その辺りに対応するというのが新型インフルエンザの対応には重要なことというふうに感じております。その辺の対策も今回は考えていらっしゃるのでしょうか。

○菊池地域保健課長 今回改定させていただきますこの計画の中に、大きな項目の中に情報共有の在り方というのの見直しが入っております。これまでこういったパンデミックが引き起こされたときに、関係機関で情報連携してきたわけですけども、ここに新たにリスクコミュニケーションという項目が入りまして、今、委員がおっしゃられたような、そういったデマですとか、そういったものに対する対策をきちっと取っていくことが定められております。

以上でございます。

○池田委員長 そこは、今、課長の答弁だと、項番5の（3）の中で項目が8から13に変わったところの中の今の詳細なところという認識でよろしいのでしょうか。

○菊池地域保健課長 ご指摘のとおりでございます。

○白川委員 安心しました。それでお願いということがあるんですが、まずはワクチンについてはかなり急ごしらえのものをつくっていくことになると思うんですが、そこでの被害状況というのが、被害というのは副反応のことですが、隠蔽があったんじゃないかという話がすごく多くて、それは虚実あったみたいなんですけど、その辺のことは正直に話すと。こういう副反応がありましたというのをいち早く公表するというのが重要なことというふうに思います。

もう一つは、デマがあった場合に、もう一々、一つ一つを反論していくというのも結構効果がありますので、それはちょっと区のレベルでやることではないかもしれませんが、問合せがあった場合には、こういう問合せがあったがこういうふうに答えましたという情報は、ぜひSNSを通じて流していただきたいなと思っております。いかがでしょうか。

○菊池地域保健課長 委員ご指摘のとおり、様々なこういったパンデミックのときにデマが飛び交ったというふうに認識しております。こういった情報提供体制につきましては、庁内連携して、政策経営部門ですとか我々保健所が情報発信する元となって、きちっと正しい情報を伝えてまいりたいと考えております。

○白川委員 では、最後にお聞きいたします。この、区の新型インフルエンザに対する対策としてできるだけ人と接触しないということが出てくると思うんですが、そのときにリモートワークが進んでいると非常に都合がいいということがパンデミックのときには分かりました。その辺はもう出来上がっていますでしょうか。要するに、区として、パンデミックがもう一回あった場合には、もうリモートワークで対応できるという体制はもう整っ

ていますでしょうか。

○菊池地域保健課長 今回のパンデミックを踏まえまして、区の中でも事業継続計画の見直し等をこれから行ってまいりますので、そういった中で、これまでの働き方、リモートワークの進め方などもいま一度検証させていただきたいと考えております。

○池田委員長 はい。ほかはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。それでは、（４）千代田区新型インフルエンザ等対策行動計画の改定についての質疑を終了いたします。

以上で、日程の１、報告事項を終わります。

次に、日程２、その他に入ります。

委員の方から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○池田委員長 はい。執行機関から何かございますか。（「ございません」と呼ぶ者あり）はい。

それでは、本日はこの程度をもちまして閉会といたします。ありがとうございました。

午後３時３９分閉会